



高橋教授の

この人に 会いたい

Vol.103

ゲスト

清水 歴

氏 豊栄グループ総括

社会福祉法人豊の里など、宮崎県都市を拠点に38事業所を展開し、福祉・医療・保健の総合的サービスを提供している豊栄グループの清水歴総括。地域に根ざした福祉・医療をすすめると同時に、米国で福祉施設を開設・運営している。対談では、清水総括を高橋泰教授が直撃。日米における高齢者ケアの違いについて語り合った。

米国福祉最前線 「ホスピタリティか、あるいはビジネスか」

ロサンゼルスでの挑戦 1日28万円の衝撃

高橋 清水さんとは、お父様である豊会長(故人)の代からのお付き合いですね。現在は宮崎県での大規模な事業運営と並行して、ロサンゼルスでも高齢者施設を運営されていますが、日米両方の現場を知る立場から見ると、運営面での最大の違いはどこにあると感じていらっしゃいますか。

清水 最も衝撃的なのは、すべてが「ビジネス」として徹底されていることです。ロスの施設はまだ1年目ですが、ある保険会社と地域の施設として契約を取ることができたら、場合によっては1日あたり1800ドル、日本円にして約28万円という高額の金額が支払われます。

高橋 1日居住者をお世話するだけで、28万円ですか。それは驚きですね。

清水 ええ。これは日本のグループホーム約2棟分(36床)の収入に匹敵します。また、長期滞在(ロングタームケア)の患者さんは、最低でも1日あたり358ドル、日本円にして約5万5000円。病院から来られるかたは、病院が当施設への金額を交渉して入れますが、1日あたり850ドル(1000ドル(日本円で約13万円)15万円)で4週間の契約はざらにあります。しかし、それに見合うだけのコストも桁違いです。看護師の時給は35ドル(約5500円)、介護職でも22ドル(約35



に高い費用を払ってでも転送しようとするのですが、中にはホームレスやドラッグ中毒者も含まれます。支払い能力のない患者を無計画に預かり続けられ、経営は即座に破綻します。また、ドクターと密に連携して、患者をタイミング良く緊急病院へ搬送するかが鍵に

なります。しかし一度送った患者さんを受け入れなければいけない義務はないので、即座に計算し再度受け入れるかを判断します。アメリカの過酷な医療・福祉環境において、これは施設を守るための必然的な「ビジネス」の決断なのです。

340kgの巨漢と

「個人の選択(チョイス)」

高橋 ケアの現場そのものについても、日本的な常識が通用しない場面が多いのではないですか。

清水 はい。入居者の方々が抱える背景は、日本では想像もつかないほど壮絶です。現在、施設には体重が750ポンド(約340kg)もある46歳の男性が入居しています。ベッドに収まりきらない巨体で、体位変換だけで3人がかりの介助が必要です。驚くべきは、彼が糖尿病で重度の褥瘡(床ずれ)を患っていても、本人が「インスリン注射はいらぬ」と拒絶すれば、ドクターも私たちもそれを強制することはできないという点です。

もう一点は、スタッフを守るという視点の重要性です。ストーリーで長く生活している方は、自分の身は自分で守らなければならぬという考えが強くなります。そのため、食事の時にフォークを出さないようにするなどの注意が必要になる点は大きな違いです。

高橋 日本であれば、家族やスタッフが何とか説得して、治療を受けさせるのが「善」であり「おもてなし」だと考えがちですが。

清水 アメリカでは「自分の人生をどう終えるかを含め、すべては個人のチョイス(選択)」という考え方が徹底されています。たとえ

撮影=関口宏紀



高橋 泰

Tai Takahashi
国際医療福祉大学教授
たかはし・たい●1986年、金沢大学医学部卒業、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了（医学博士）後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より21年3月まで安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進会合医療福祉部門副会長を務めた

強烈な自己主張を持つ団塊の世代を 介護する時代になる——高橋

その選択が死を早める結果になる
うとも、本人の意思が最優先される
のです。当初、私たちは日本流
の「良くなってほしい」という善
意で接していましたが、それが全
く通じないもどかしさを経験しま
した。

清水 最近ではアプローチを180
度変えました。彼らが歩んできた
過酷な人生——虐待、家族の自
殺、ドラッグへの依存など——
にじっくりと耳を傾け、「人生の
相談相手」になることに時間を割
くようにしたのです。相手の文化
や凄まじいバックグラウンドを否
定せず、会話を通じて受け入れる

武器です。現に、アメリカのう
ちの施設に入居している方々は、そ
の心地よさから「もうここから出
たくない」と言ってくれます。こ
の日本流の良さを、どうやってピ
ジネスとして持続可能な形にする
かが、私たちの世代の使命だと感
じています。

団塊世代が変える 「自由と自己責任」の介護

高橋 これから日本でも、価値観
の全く違う「団塊の世代」が本格
的に介護を必要とする時代に入
ります。彼らはこれまでの「従順な
高齢者像」とは全く異なり、若い

ある程度自由を許容する 施設にしていく必要がある——清水



清水 歴

Yukari Shimizu
豊栄グループ総括
しみず・ゆかり●1976年生まれ。中学から
渡米し、カリフォルニア州のジュニアハイ
スクール、ミネソタ州の高校を経て日本の
大学を卒業。ニューヨークのレストランスク
ールで学び、米国管理栄養士などの資格を取
得。横浜で「Global Kitchen」を設立し、料
理教室や国際イベントを企画運営。31歳で
父豊氏（当法人の経営者）の要請を受け福
祉業界へ転身。海外事業室長などを経て、
2021年にグループ代表に就任。2024年10
月、米国LAでCanyon Vista Congregate
Livingを開設

頃にはヘルメットを被って学生運
動に身を投じ、女性はミニスカ
ードで街を闊歩して既存の価値観を
打ち破ってきた、強烈な自己主張
を持つ世代です。そんな彼らが施
設に入ってくるとなれば、現場の
対応はこれまで以上に大変なもの
になるでしょう。

清水 本当におっしゃる通りで
す。彼らは「自由」を何よりも重
んじ、自分のやりたいことを最後
まで貫き通したいという欲求が非
常に強い世代です。これからの介
護施設は、スタッフが一方的に入
居者を管理する「監視」の場であっ
てはなりません。アメリカのよう
に「自分の行動には自分で責任を
持つ」という前提のもと、ある程
度の自由を許容する場でなけれ

こと。この「傾聴」からのアプロ
ーチこそが、アメリカの社会問題を
痛感する中で見出した、新しいホ
スピタリティの形でした。

「安くて親切な国」 日本への憐れみと悔しさ

高橋 今の清水さんのお話を伺う
と、日本がいかにも「恵まれた、し
かし停滞した国」であるかが浮き
彫りになります。私は最近、世界
から日本が「憐れみの目」で見ら
れていると感じて、非常に悔しい
思いをしています。

清水 先生のおっしゃる通りで
す。

高橋 例えば、今の大学生が海外
旅行に行こうとしても、現地の物
価が高すぎてラーメン一杯に30

00円も払わなければならないず、手
が出ないということが起きていま
す。一方で、海外から日本に来る
人々は「500円で美味しいラン
チが食べられるなんて、日本は安
くて最高の国だ！」と大喜びして
いる。これは日本が豊かになった
からではなく、日本人の「買い物
をする力（購買力）」が世界の中で
相対的に弱くなってしまったこと
を意味します。かつて「経済大国」
として世界を席巻した日本を知る
身としては、韓国やインドの人た
ちから「日本は景色もきれいで人
は親切だけど、稼がないから生活
が大変そうだよ」と、まるで「か
つてのスターが落ちぶれた」か
のように同情されるのは、耐え難い
屈辱です。

清水 だからこそ、私は何として
も米国で成功を収め、日本でも新
しい価値を創造したいという強い
エネルギーに変えています。アメ
リカのスタッフも日本を訪れると
「安くて美味しいし、みんな親切
だ」と絶賛します。この「質の高さ」
と「細やかなホスピタリティ」こ
そが、今の日本に残された最強の

ば、彼らからは選ばれないでしょ
う。

高橋 具体的には、どのような新
しい介護の形を準備されています
か。

清水 新しく立ち上げるグループ
ホームでは、ある挑戦的な試みを
予定しています。それは、「怪我
をさせないこと」を最優先するの
ではなく、「本人がやりたいこと
をやる」ことを優先し、たとえ転
倒のリスクがあってもそれを承知
の上で入居してもらうというもの
です。誰かに管理され、安全とい
う名のもとに自由を奪われるので
はなく、最後まで一人の人間とし
て、自立して生きる。それを支え
るのは、アメリカ的なドライな契
約関係と、日本流の細やかなケア
の力を融合させた、新しい日米融
合モデルです。

高橋 アメリカでのシブアナビジ
ネス経験と、日本が培ってきたホ
スピタリティ。その両輪が、日本
の福祉を「アップデート」してい
くことを大いに期待しています。
本日はありがとうございます。